

# 「地質情報展 2022 あいち—発見！あいちの大地—」 開催報告

遠山 知亜紀<sup>1)</sup>・宮下 由香里<sup>1)</sup>・渡辺 真人<sup>1)</sup>・利光 誠一<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

産業技術総合研究所(以下、産総研)地質調査総合センター(以下、GSI)と日本地質学会、名古屋市科学館が主催する「地質情報展 2022 あいち」が、2月19日(土)、20日(日)の2日間、名古屋市科学館地下2階イベントホールで開催された。本事業は、2020年9月の日本地質学会学術大会と合わせて開催する予定であったが、2020年2月から本格化した新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となった。翌2021年10月に再度開催を計画したがこれも中止となり、三度目の正直として、2022年2月に開催を計画した。今回も感染拡大が収まらない中での開催となったが、これまでの新型コロナウイルスの感染予防対

策で得た知見を活かしながら念入りに計画を練り、開催に至った。

## 2. 企画・運営体制

今回の地質情報展では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に応じて開催規模を変更できるよう3つの展示案(A、B、C案)を準備した。しかし、開催一ヶ月前にB案での開催を決定したところ、GSI幹部からB案に感染リスクの低い体験コーナーを加えたB'案での開催要請があり、最終的にB'案で開催することとなった。第1表、第2表に展示案とB'案での運営体制を、写真1に会場の様子を示す。

第1表 地質情報展 2022 あいち展示内容

	展示内容
A案)	研究紹介パネル25枚+体験コーナー6つ
B'案)	研究紹介パネル25枚+体験コーナー2つ+研究者のリモート解説
B案)	研究紹介パネル25枚+研究者のリモート解説(体験中止)
C案)	研究紹介パネル25枚のみ展示(体験中止、リモート無し)

第2表 地質情報展 2022 あいち展示内容(B'案)における運営体制

### 2022年度地質情報展企画運営委員会

田中裕一郎・兼子尚知・猪狩俊一郎・二宮 啓・森田澄人・宮下由香里・渡辺真人・遠山知亜紀・利光誠一・中澤 努

### 事務局スタッフ

宮下由香里・渡辺真人・遠山知亜紀・利光誠一・川畑史子・森田啓子・浦井聡子

### パネル作成

宮崎一博・斎藤 眞・中島 礼・石原武志・柳澤教雄・宮川歩夢・兼子尚知・中村淳路・吾妻 崇・宮下由香里・及川輝樹・藤原 治・天野敦子・高木哲一・角井朝昭・内田洋平

### ポスター、パネル編集・印刷など

川畑 晶・山谷忠大・中島和敏・都井美穂・清水 恵

### 会場運営

田中裕一郎・宮下由香里・渡辺真人・遠山知亜紀・利光誠一・森田啓子・兼子尚知・宮地良典・川邊禎久・斎藤 眞

### リモート解説

中島 礼・宮川歩夢・吾妻 崇・藤原 治

1) 産総研 地質調査総合センター連携推進室

キーワード：地質情報展、アウトリーチ、地質図、体験型講座、地学教育、普及活動、リモート解説



写真1 開催直前の会場の様子

### 3. 展示内容

今回の地質情報展のサブタイトルは、「発見！あいちの大地」とした。名古屋市では、1999年に「中部地質情報展 20億年のタイムトラベル」というタイトルで名古屋市科学館を会場として開催している。この時は、中部地方という広い範囲の地質情報を紹介したが、今回は愛知県を中心に東海4県に絞った内容とし、サブタイトルを「発見！あいちの大地」とした。初日の開会式は、コロナ禍のため、主催者である地質調査総合センターの田中裕一郎実行委員長、日本地質学会の磯崎行雄会長（リモート参加）、名古屋市科学館の鈴木雅夫学芸課長の3名による短い挨拶のみ取り行った。

本事業を実施するにあたり、当初は研究紹介パネルの展示に加え、子供向けに6つの体験コーナー（地盤の揺れ実験・液状化実験・化石レプリカ・鳴り砂・石割り・ロックバランス）を行うA案を準備していた。しかし、開催直前になっても新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少しなかったため、体験コーナーは感染リスクの低い「地盤液状化実験ショー」と「福徳岡ノ場の軽石展示と重さ比べ」の2つに縮小した(写真2, 3)。これに伴い、予定していた学生アルバイトの雇用もなしとなった。また、会場の運営スタッフもGSJ幹部より9名以内に抑えるよう要請があったため9名とし、その代わりに、つくばから研究者4名による研究パネルのリモート解説を導入し対応した(写真4)。

研究紹介パネルは、「中部地方の20億年の記録」、「日本列島の礎が大陸の縁でできていた時代」、「西三河平野の地質と産業」、「濃尾平野の深〜い地下の話」、「伊勢湾の活断層調査」、「知多半島・西三河の盆地反転」、「愛知の活断層」、「地震の起こり方」、「南海トラフ巨大地震の繰り返し」、「海溝付近で起こる地震と津波」、「名古屋から見える活火山と



写真2 体験コーナー「地盤液状化実験ショー」の様子



写真3 体験コーナー「福徳岡ノ場の軽石展示と重さ比べ」の様子

御嶽山の噴火」、「地中熱利用システム」(2枚組)、「温泉・地熱の利用」、「今も昔も重要な資源『石灰岩』」、「瀬戸・東濃の粘土資源」(2枚組)、「元素の地図ー中部地方ー」(2枚組)、「東海地方の岩石・鉱物：県の石」、「東海地方の化石」





写真4 リモート解説の様子  
配布した資料を見ながら研究者の解説を聞く来場者

(3枚組)の計23枚と「AIST紹介」,「GSJ紹介」を展示した。リモート解説は、「西三河平野の地質と産業」,「濃尾平野の深〜い地下の話」,「知多半島・西三河の盆地反転」,「愛知の活断層」,「地震の起こり方」,「海溝付近で起こる地震と津波」について行った。第3表に「地盤液化実験ショー」とリモート解説の当日のスケジュールを示す。

この他に、中部地方を中心にした1/20万日本シームレス地質図の床貼り(1/10万縮尺で印刷して、8m×7.5mのサイズ)を展示した(写真5)。そして、この床貼りと「県の石」のパネルについては、関連の岩石や鉱物の標本の展示も行い、来場者が体感できるようにした。日本地質学会からは、「第12回惑星地球フォトコンテスト」の入選作品の出展があり、デジタルサイネージ(50インチ)での展示を行った。

#### 4. 新型コロナウイルス感染症対策

今回の地質情報展で実施した新型コロナウイルス感染症対策とその問題点を第4表に示す。基本的な新型コロナウイルス感染症対策は、産総研や名古屋市科学館の担当者と相談しながら進めた。抗原検査キットやフェイスシールドは事務局でまとめて購入し配布した。また、CO<sub>2</sub>モニターについては、換気の見安となるCO<sub>2</sub>濃度は1000ppmと

言われているが、会場がとても広く(777m<sup>2</sup>)、空調設備も優れていることから、開催期間中の会場のCO<sub>2</sub>濃度は500ppm前後であった。今回実施した対策のうち、抗原検査キットによる確認とCO<sub>2</sub>モニターの設置は、GSJ職員や来場者の安心に繋がるため、今後も地質情報展開催時は実施したい。一方で、フェイスシールドとマスクの併用は視界不良と体調不良に繋がり、当日登録は多くの来場者が個人情報登録することに抵抗を感じ入場を諦めていたことから、今後も実施するか検討が必要である。

#### 5. 来場者数と来場者からの声

初日は午前中の設営準備や開会式のため12時開始となり、開催2日間の来場者数は424名であった。名古屋市科学館のイベントホールはかなり広い会場であったため、幸い来場者で密になることはなかった。しかし、会場運営スタッフを9名に絞ったことで展示パネルの説明者が不足気味で、説明要員が間に合わずに諦めて会場を後にする来場者もいた。今回はアンケートを取らなかったが、スタッフが直接受けた来場者からの声を第5表に示す。来場者からの声として、「他の回の地質情報展をネットで見ており、体験を楽しみに来たのに残念」「化石の展示や体験がやりたかった」などが多く、例年通りの子供向けの体験コーナー

第3表 当日イベントスケジュール

イベントスケジュール			
19(土)	13:40 ~ 13:55	液状化実験	
	14:00 ~ 14:30	リモート解説	5万分の1豊田/沿岸域地質1 (濃尾平野)
	14:40 ~ 14:55	液状化実験	
	15:00 ~ 15:30	リモート解説	東海地震・南海地震/海溝型地震の起こり方
	15:40 ~ 15:55	液状化実験	
	16:00 ~ 16:30	リモート解説	知多半島・西三河の盆地反転
20(日)	10:40 ~ 10:55	液状化実験	
	11:00 ~ 11:30	リモート解説	5万分の1豊田/沿岸域地質1 (濃尾平野)
	11:40 ~ 11:55	液状化実験	
	13:40 ~ 13:55	液状化実験	
	14:00 ~ 14:30	リモート解説	知多半島・西三河の盆地反転
	14:40 ~ 14:55	液状化実験	
	15:00 ~ 15:30	リモート解説	愛知の活断層
	15:40 ~ 15:55	液状化実験	
	16:00 ~ 16:30	リモート解説	東海地震・南海地震/海溝型地震の起こり方



写真5 シームレス地質図床貼り展示の様子

が開設できなかったことはとても残念であった。一方で、今回初めて実施したリモート解説については評判が良く、「自宅からでも観られないか」「会期後もネット上で観られないか」などの問い合わせが多くあった。

## 6. おわりに

地質情報展 2022 あいちの開催にあわせて、GSJ ウェブサイトで、2014年以降の地質情報展の展示パネルを検索・閲覧できる「地質情報展ポスターアーカイブ」サイトを公開した(地質情報展のサイト <https://www.gsj.jp/>

[event/johoten/index.html](https://www.gsj.jp/event/johoten/index.html) から辿ることができる)。これは、2020年度の地質情報展が中止になった際に現地開催イベントの代替措置として検討を始めたもので、高精細なパネル画像の閲覧も可能なので、教育現場での授業や各地の博物館での展示等にご活用いただければ幸いである。

**謝辞：**名古屋市科学館の小塩哲朗氏、木田梨沙子氏には会場準備などについて大変お世話になりました。併せて、適宜パネルの解説などの協力もいただきました。また、会場アルバイト募集では名古屋大学の竹内 誠教授、名古屋大学博物館の大路樹生教授、愛知教育大学の星 博幸教

第4表 地質情報展で実施した新型コロナウイルス感染症対策とその問題点

GSJ職員
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張前と現地にて毎朝抗原検査を実施し、陰性を確認</li> <li>・当日はマスク、フェイスシールド着用</li> <li>・説明者を厳選し9人で現地対応を行った</li> </ul>
来訪者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市科学館の入り口で、検温と手指消毒</li> <li>・地質情報展会場入り口で、マスク着用、手指消毒</li> <li>・当日登録（代表者がQRから空メールを送る） （3週間後アドレスの破棄を告知の上）</li> <li>・体験コーナー、展示物を触る際に手指消毒と使い捨て手袋の着用</li> <li>・家族間の間隔をとる</li> <li>・CO<sub>2</sub>モニターを複数個設置し、1000 ppmを超えた場合、入場制限をかける</li> </ul>
問題点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスシールドが曇り、視界が悪くなる （解説時間が長くなる場合が多いため、特に問題となった）</li> <li>・マスクとフェイスシールドの併用は特に熱が籠り、息苦しさを感ずる</li> <li>・パネル解説員と体験コーナー説明員が明らかに不足 対応できず、帰ってしまった来場者もあった</li> <li>・当日登録の実施により、入場をやめる来場者が多くあった</li> </ul>

第5表 来場者からの声

来場者からの声
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者と直接話すことができてよかった</li> <li>・じっくり話ができてよかった</li> <li>・リモートでも専門家に直接質問することができてよかった</li> <li>・自宅からリモート解説を観たかった</li> <li>・終了後もネット上で解説がみたい</li> <li>・床張りが面白かった</li> <li>・軽石が軽くて驚いた</li> <li>・無料のパンフレットがもらえてうれしかった</li> <li>・当日登録は面倒（入場せず）</li> <li>・個人情報書きたくない（入場せず）</li> <li>・体験コーナー少ないから子供が飽きる</li> <li>・他の回の情報展をネットで見ていたので、体験を楽しみに来たが、体験モノがほとんどなかった</li> <li>・化石の展示や体験がやりたかった</li> </ul>

授にお手数をおかけしました。化石及び粘土資源、地質年表パネル作成においては所外の関係の方々には画像提供と使用に関わるご了解をいただきました。そして、A案での開催想定時に協力をお願いしていたGSJの方々にも大変ご迷惑をおかけしました。以上の方々に、記して感謝申し上げます。

また、本事業ではリモート解説やフォトコンテストなどで、デジタルサイネージ(2台)と大型モニター(2台)を使用しました。これらは募集特定寄附金GeoBank(ジオバンク; <https://www.gsj.jp/geobank/index.html>)で購入したものです。GeoBankは、GSJの研究成果を広く社会へ普及さ

せていくための環境づくりを目的として使用されています。ご寄付をいただいた方々に深く感謝申し上げます。

なお、地質情報展2022あいちの開催状況は、中日新聞の取材を受けて記事掲載(2022年2月20日朝刊)されました。

---

TOYAMA Chiaki, MIYASHITA Yukari, WATANABE Mahito and TOSHIMITSU Seiichi (2022) Report on Geoscience Exhibition in Aichi 2022.

---

(受付: 2022年6月28日)